

使徒とは、しもべと管理者です

ホープ・チャペル所沢

第一コリント人への手紙 4:1-21

「こういうわけで、私たちが、キリストのしもべ、また神の奥義の管理者だと考えなさい。このばあい、管理者には、忠実であることが要求されます。」（第一コリント4:1-2、新改訳）

序文

新約聖書を読み進めていくと、福音書のマタイ・マルコ・ルカ・ヨハネ以降、すぐに、「使徒」についての記事を皆さんは読むことになります。ではいったい、「使徒」とは何でしょうか。使徒パウロは伝道旅行をしながら、弟子を作り、教会を開拓し、次世代の指導者達の育成を行なっていましたが、ある人々は、パウロにそれらの働きをするための権威と能力が与えられていないと考えました。しかしパウロは自分が、異邦人に対しては使徒として、また神様の奥義の管理者として、仕えるため、神様に召され、力を与えられていることを理解していました。パウロの愛と犠牲の表れたライフスタイル、恵みと真理における模範、彼の言葉と行ないに示された神様の権威と力が、神様との交わりと神様に委ねられた使徒としての役割を証明しました。

1. 使徒とは何ですか。 （第一コリント 4:1-5）

- ア) 神様は、まず最初に使徒たちに権威を与えました。（エペソ 4:11-16）
- イ) 使徒であっても、私達と同様に「仕える者」、「管理する者」としての責任が神様から問われます。

2. 使徒の霊的権威。 （第一コリント4:6-13）

- ア) 神様は召し、能力、そして権威を、使徒やその他の指導者たちに与えました。
- イ) 指導者に与えられた霊的権威は、人々への犠牲を伴った愛によって増し加えられます。

3. コリントの信者たちに、模範として示されたパウロの信仰。 （第一コリント4:14-21）

- ア) 「養育係」と「父」の違いは何ですか。
- イ) 信仰を学ぶためには、単に聞いて覚えるのではなく、見て行うことが大切です。

私たちの祈りと学び、話し合いと応用のために

- 1) エペソ4:11-16を読みましょう。神様はどのようにご自分の教会を建て上げられるのですか。
- 2) 使徒と牧師の違いは何ですか。また、なぜその違いは重要なのでしょうか。
- 3) 14-21節を読みましょう。なぜパウロは自分自身が行く前に、テモテをコリントに遣わしたのでしょうか。

結論

私たちクリスチャンの信仰が、知識と実践においても成長するためには、良い模範や教えとなる、忠実な霊的父母が必要です。

042708hctj